

地域の廃材を活用した染色の可能性

柴田学園大学 健康栄養学科 葛西 美樹

TEL 0172-32-2289 FAX 0172-33-2486

e-mail m-kasai@shibata.ac.jp



<https://www.youtube.com/@user-cw6dw9zm1n>

(家庭科教材研究グループ：基礎縫い動画)

キーワード

衣生活, 植物染色, 家庭科教育, 教材開発

古くから、身の回りにある植物で糸や布を染色し身にまとってきましたが、その技法は現代でも「植物染色」や「草木染」などとして親しまれています。この植物染色は、布と染料の親和性が高いほど濃い色に染まることや80°C程度の高温染色が伝統的な染色法であることは良く知られています。

青森県津軽地方の特産品「スチューベン果皮を用いた布の染色」を行ったところ、綿布では高温染色よりも25°Cの低温染色で濃く染まることがわかりました。このことは、低学年の児童や幼児、高齢者にとって安全に取り組むことができる染色方法の1つと言えます。また、染色により、抗菌性などいくつかの性能が向上することも明らかになり、植物染色には単に布を彩るだけではない「魅力」がたくさんあることがわかりました。(葛西・安川, 2017)

植物染色を利用した実践活動として、公開講座や、地域の高齢者や子どもたちなど一般市民を対象とした出前授業、高校生を対象とした授業を行っています。

受講者の中には、講座で学んだ内容を発展させ、津軽の伝統工芸品「こぎん刺し」に取り入れ活動しているグループもあります。



スチューベンの搾りカスで染色したハンカチ



完成後の植物染色作品

家庭科教材の開発

これまで、写真撮影法を取り入れた吸水速度測定法(葛西・安川・小野・日景, 2015)、防湿性試験方法(葛西・工藤・安川・日景, 2016)など、簡便な評価方法について検討しました。

また、青森県家庭科技術検定被服製作実技講習会(葛西・工藤, 2016)、秋田県被服製作技術検定1級洋服講習会(葛西・工藤, 2017)を実施するなど、家庭科の先生方と情報交換をしながら、ともに家庭科教育の課題解決に取り組んでいます。

家庭科教材研究グループ(葛西・工藤・奈良)では、左右の利き手に対応した基礎縫い15種類の動画を作成し、2022年12月よりYouTubeで公開しています。